



ケイ酸は水稻の生育を促進し、穂を十分に登熟させるためには欠かせない成分です。しかし、生産コストや労力面の問題で、ケイ酸を含む土壌改良材の施用量が減少していることから、施肥の効率化が求められています。

そこで、水稻「なつほのか」に対する熔成ケイ酸リン肥入り基肥一発肥料（以下、ケイ酸入り肥料）をJA全農ながさき、くみあい肥料と共同で開発し、これを用いた側条施肥体系の確立に向けて2022、23年度に栽培試験を行いました。

その結果、ケイ酸入り肥料の側条施肥によって、水稻生育期間中の草丈向上および有効茎数を確保できました。また、精玄米重は慣行一発肥料に対して3〜7%増加し、食

味値も高まることが分かりました。
この成果は、ケイ酸分が不足しやすい地質で、土壌の可給態ケイ酸含量が基準値15mg/100g以下の場合に有

水稻側条施肥体系確立へ試験

ケイ酸入り肥料を使い 増収と食味値向上確認

収量構成要素と食味値の評価

年度	処理区	施用法	稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (本/㎡)	もみ数 (100粒/㎡)	登熟歩合 (%)	精玄米重 (kg/a)	検査等級	食味値 (%)
2023	ケイ酸入り肥料	側条	75.4	21.4	310	243	87.1	51.5(107)	3.3	80
	慣行一発肥料	側条	73.9	21.6	324	225	87.7	48.3(100)	3.0	77
22	ケイ酸入り肥料	側条	78.6	20.2	298	233	91.4	49.2(103)	6.0	81
	慣行一発肥料	側条	79.6	19.9	276	222	92.7	47.7(100)	6.0	78

※検査等内級：1（1等上）～10（規格外）の10段階評価

※精玄米重のこっちは対慣行一発肥料比

効です。なお本試験は普通期作型で、側条施肥田植え機を使用しました。

現在ケイ酸入り肥料は、くみあい肥料の「ケイさんどおり」として販売されています。

（県農林技術開発センタ
環境研究部門 土壌肥料研
究室 佐藤雄亮）